

各市町村や母子保健関連団体・企業が主催する妊婦夫婦が参加できるマタニティ講座が、各地で行われています。ここでは沐浴や抱っこ、おむつ交換に妊婦さんとその夫が真剣に取り組んでいます。中でも夫の方が照れながらも妻より上手にやろうと懸命になつていく姿に、育児の担い手は「母と父」が定着しつつあることをとてほほ笑ましく拝見しています。

親の役目で、父親はそばで見ているか、オムツを捨てる役割でした。もちろん育児相談は母親からだけでした。

それが5、10年の経過で、

父親もオムツを交換し、父親からも相談を受け、今では父親一人で参加して、手際よくオムツを交換し、離乳食を食べさせるイクメン(※)が多くなりました。時には子どもをプレイマットで遊ばせながら、ほかの母親と育児の情報交換をし、いろいろ細かく相談していくスーパードアイクメンも登場しています。本当に父親の育児への意識と介入は驚くほどの進化であると実感しています。

この父親の熱心な育児心理に関連しそうな調査結果を紹介します。妊婦夫婦106組に、妊婦に対する夫のサポート満足度を調査した結果、夫の80パーセント以上が何らかの家事に関わり、

妊娠を契機にその範囲や頻度も多くなっています。また妊婦をいたわる態度や行動も半数近くが変化し、妊婦の満足度はとても高い結果でした。

しかし夫は妊婦がそれほど満足していないと予想していて、自分のサポートに自信を持っていないようすがうかがわれました。そんな夫のもっとしてあげなければという心理が、育児期に入っていくイクメンの道を歩ませているのかも知れませんね。実際にイクメンな父親に話を聴くと、「妻は専業主婦でストレスが高いので、休みの日くらい解放させてあげたい」「日頃子どもとの関わりが少ないので、役に立っているのはうれしい」「妻が仕事なので留守番ですが、ぐずりの対応は下手なのでここに連れてきました」「妻がしていることは、自分も同じように経験したいです」など育児の楽しさや妻への

いたわり、自分も妻と同じ立場で育児したいという思いであることがわかります。世間では、親なら育てて当たり前と思われがちですが、子育て人口が少ない今は、苦労や遠慮も多いものです。いいところを認めてもらえないと頑張りにも限界があります。これからは「それでいいですよ」「よくやっていますね」のサインを、母親だけでなく父親へもフィードバックすることを心がけていかなければいけませんね。もちろん事情によりイクメンほどにならない父親にも影からエールを送りたいものです。

何といっても「国の宝」を育ててくださっているのですから…。

※イクメン



子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと。男性の子育て参加や育児休業取得促進などを目的とした「イクメンプロジェクト」がきっかけになり浸透した用語。

**大学図書館へようこそ!**

大学図書館では市民の皆さまを対象に、図書館利用講座「図書館ガイダンス」を開催します。パソコンを使ったことがなくても大丈夫。お気軽に申し込みください。この機会に、大学図書館をのぞいてみませんか?

■とき 8月20日(木) 13:30~15:00  
8月27日(木) 10:00~11:30

■ところ 市立大学本館1階 図書館本館

■内容 ①図書館の世界を知ろう  
~図書館でできること~  
②蔵書検索をしてみよう

●市立大学図書館 開館時間変更・休館のお知らせ  
8月10日(月)~9月23日(水)は短縮開館(9:00~19:00)  
8月14日(金)~17日(月)は休館

●申し込み・問い合わせ  
名寄市立大学図書館本館 ☎01654②4199(内線3114)  
FAX 01654③9101